

直下型地震が襲う

主な登場人物 長野 剛（ながの・たけし | おらが産業社長 | 54 歳） 浅川 真理（あさかわ・まり | おらが産業総務部長 | 32 歳）
青木 浩平（あおき・こうへい | おらが産業製造部係長 | 35 歳） 赤沼 正（あかぬま・ただし） | おらが産業製造部部長 | 58 歳）

BCP（事業継続計画）＝災害時に被災しても、主要な事業を継続できるようにしておくための計画・取り組み

突然の災害や事故が発生したら、あなたの会社は事業を続けられますか？この連載では、社員10人の小さな製造業「おらが産業」が、地域や会社内に襲い掛かる災害や事故など、さまざまな危機に立ち向かう架空の物語を通して、事業継続計画（BCP）の必要性和その効果を描きます。危機に備えることが、どれほど大切かを一緒に考えてみませんか？すぐに実践できるヒントが見つかるはずです。

おらが産業製造部係長の青木浩平は、昼食を済ませ、工場で機械の点検をして

今回のポイント

- ① 平時から、被災を前提とした訓練をしておく。
- ② 社長の不在時にも、代わりの者が指揮をとる体制を整えておく。
- ③ 1週間又は1カ月程度、事業を中断した際の損失を把握し、最低限必要なキャッシュフローを確保しておく。

いた。カタカタ……、机の上の工具入れが、かすかに揺れていることに気づいたその瞬間、突然の激しい揺れに青木は反射的に叫んだ。「やばい、地震だー」。

20××年3月1日13時45分、長野市直下型地震が発生した。マグニチュード（M）7.3、最大震度6強。長野市でM7を超える地震が起きるのは1847年の善光寺地震以来、はじめてのことである。

青木は白馬村の出身だ。2014年の神城断層地震で被災した経験を持つ。金属の軋む音、倒れる機械、割れるガ

ラス……。その音が、かつて被災で姿を変えた故郷、白馬村での悪夢をよみがえらせた。青木は動揺しながらも、頭を守りつつその場がかがみ込んだ。

社長の長野剛は、東京へ出張中だった。製造部部長の赤沼正が、総務部長の浅川真理と、仕入れにかかわる経費を打ち合わせていた。揺れが収まると、赤沼は即座に浅川に指示を出した。「浅川！ 全員の安否を確認してくれ。救助班を編成して、工場内を調べるぞ！」

「了解です！」浅川は冷静に応答し、社員に連絡を取り始めた。

赤沼は、社長の長野より一回り以上年上だ。社長不在時の指揮は赤沼に委ねられている。赤沼は、毎年2回の防災訓練に合わせ社員の救助訓練を欠かさずに行ってきた。「こうした訓練は古参が率先しないとでん」は彼の口癖だ。工場内を暗くして、2チームが壁沿いを右回りで進み、負傷者を捜索する本格的な訓練も実施したことがある。

赤沼は、直属の部下である青木が工場で閉じ込められていることを即座に感じ取った。

「すぐに助けに行く。動かず待つて

ろー」

赤沼は、工場内で足を挫いて動けなくなっている青木をすぐに発見し、救助班の担架で救出した。幸いにも社員全員が無事だったが、工場内の損壊は激しく、製造ラインは完全に停止した。

「これは、すぐには再開できそうにないな……」。赤沼は深いため息をついた。夕方、東京に出張中の長野と連絡がついた。反応は意外にも冷静だった。「ありがとう、完璧な対応だ。被災時に備え1カ月間の事業中断による損失額は計算し、貯蓄してあるから金の心配はない」

さらに、BCPに基づき備蓄していた

戦略的な在庫が功を奏し、主要顧客への出荷を途切れさせることなく対応できることもわかった。

翌日、東京から戻った長野は社員を集めこうこう語った。「みんな、ありがとう。これまで赤沼を中心に訓練をしつかりやってきたおかげだ。しかし、多くの人々が被災をし、しばらくは、つらい状況が続く。BCPは通過点に過ぎない。本場に必要なのは、変化する地域の状況に柔軟に対応し、共に復興を目指すことだ」

小さな会社でもできるBCPチェック

BCP (Business Continuity Plan：事業継続計画) と聞くと、なんだか難しく感じられるかもしれませんが、立派な計画を作る必要なんてありません。小さな会社でもすぐにBCPに取り組むことができます。大切なことは、どんな小さな取り組みでも、継続して行うこと！毎月1回、30分でもいいので、下記のような質問項目を参考に、何ができそうか考え、できるものから少しずつやってみてください。まずは、防災をしっかりと行うことから始めてみるのも結構です。

リスク	内容
人的資源	緊急事態発生時に、支援が到着するまでの従業員の安全や健康を確保するための災害対応計画を作成していますか？
	災害が勤務時間中に起こった場合、勤務時間外に起こった場合、あなたの会社は従業員と連絡を取り合うことができますか？
	緊急時に必要な従業員が出社できない場合に、代行できる従業員を育成していますか？
	定期的に避難訓練や初期救急、心肺蘇生法の訓練を実施していますか？
物的資源(モノ)	あなたの会社のビルや工場は地震や風水害に耐えることができますか？ そして、ビル内や工場内にある設備は地震や風水害から保護されますか？
	あなたの会社周辺の地震や風水害の被害に関する危険性を把握していますか？
	あなたの会社の設備の流動を管理し、目録を更新していますか？
	あなたの会社の工場が操業できなくなる、仕入先からの原材料の納品がストップする等の場合に備えて、代替で生産や調達する手段を準備していますか？
物的資源(金)	1週間又は1ヵ月程度、事業を中断した際の損失を把握していますか？
	あなたは、災害後に事業を再開させる上で現在の保険の損害補償範囲が適切であるかどうかを決定するために保険の専門家と相談しましたか？
	事前の災害対策や被災時復旧を目的とした融資制度を把握していますか？
	1ヵ月分程度の事業運転資金に相当する額のキャッシュフローを確保していますか？
物的資源(情報)	情報のコピーまたはバックアップをとっていますか？
	あなたの会社のオフィス以外の場所に情報のコピーまたはバックアップを保管していますか？
	主要顧客や各種公共機関の連絡先リストを作成する等、緊急時に情報を発信・収集する手段を準備していますか？
	操業に不可欠なIT機器システムが故障等で使用できない場合の代替方法がありますか？
体制等	あなたの会社が自然災害や人的災害に遭遇した場合、会社の事業活動がどうなりそうかを考えたことがありますか？
	緊急事態に遭遇した場合、あなたの会社のどの事業を優先的に継続・復旧すべきであり、そのためには何をすべきか考え、実際に何らかの対策を打っていますか？
	社長であるあなたが出張中だったり、負傷したりした場合、代わりの者が指揮をとる体制が整っていますか？
	取引先及び同業者等と災害発生時の相互支援について取り決めていますか？